

2014年9月5日 RECCA - S8 - 創生D 研究交流会 プログラム (ver. 20140711)

会場：リモート・センシング技術センター（東京都港区虎ノ門3丁目）

	Room A	Room B
10:00   11:50	<p>(A0) 研究交流会の趣旨説明（森信人） 【司会 脇岡靖明】</p> <p>(A1) 平野淳平・防災科学技術研究所（RECCA） 東京都市圏における水害リスク評価手法の開発</p> <p>(A2) 押川英夫・九州大学（S8） ダム群による今後の自然災害への適応</p> <p>(A3) 佐藤嘉展・愛媛大学（創D） 高解像度気候モデルを用いた河川流域災害の将来予測および影響評価</p> <p>(A4) 佐山敬洋・土木研究所（創D） タイ・チャオプラヤ川を対象にした大規模洪水氾濫現象の気候変動影響評価</p> <p>(A5) 鼎信次郎・東京工業大学（創D） 水に関わる全球気候変動影響評価における幾つかの不確実性について</p>	<p>(B0) 研究交流会の趣旨説明（武若聡） 【司会 太田俊二】</p> <p>(B1) 井原 智彦・東京大学（RECCA） 名古屋の人間健康に関する適応策の設計に向けた調査および計測</p> <p>(B2) 那須清吾・植本琴美・高知工科大学（RECCA） 気候変動予測及び適応策検討の地方自治体支援と発展途上国への展開</p> <p>(B3) 田中博春・長野県環境保全研究所（S8） 力長野県における気候変動適応策導入に向けた取り組みと課題</p> <p>(B4) 村上哲・茨城大学（S8） 脆弱性・影響・適応効果指標の開発とメコンデルタでのケーススタディ</p>
13:10   14:40	<p>(A6) 渡部哲史・東京大学（創D） 【司会 鼎信次郎】 最適手法の選択に資するバイアス補正手法の類型化</p> <p>(A7) 原政之・海洋研究開発機構（S8） 温暖化ダウンスケーラの開発とその実用化</p> <p>(A8) 佐藤友徳・北海道大学（RECCA） マルチ地域モデルによる北海道の気候予測と土地利用変化による不確実性の評価</p> <p>(A9) 五藤大輔・国立環境研究所（RECCA） SALSA における領域スケールの大気汚染物質シミュレーションとその影響評価</p>	<p>(B5) 岡田靖子・京都大学（創D） 【司会 石郷岡康史】 温暖化に伴う梅雨活動及び降水変動の特性と影響</p> <p>(B6) 中尾勝洋・森林総合研究所（S8） 自然林への温暖化影響予測に基づく適応策の検討</p> <p>(B7) 高野宏平・東北大学（創D） 竹林の分布拡大と森林限界の上昇</p> <p>(B8) 森牧人・高知大学（RECCA） ダウンスケーリングデータを用いた農業・施設園芸環境の将来評価</p>
14:50   16:00	<p>(A10) 有働恵子・東北大学（S8） 【司会 武若聡】 気候変動による将来の災害リスク評価 ～ 砂浜消失予測を中心に ～</p> <p>(A11) 高尾信太郎・北海道大学（創D） 地球温暖化に伴う水温上昇が日本近海の藻場分布に及ぼす影響予測</p> <p>(A12) 西川悠・海洋研究開発機構（RECCA） アカイカ資源変動に対する温暖化影響の推定</p>	<p>(B9) 石郷岡康史・農業環境技術研究所（S8） 【司会 森牧人】 我が国のコメ生産における気候変化影響と適応策</p> <p>(B10) 西村拓・東京大学（RECCA） 北陸の田畑輪換地域における土水モデルの開発</p> <p>(B11) 吉田龍平・東北大学（RECCA） 東北における気候変化と農業生産への影響</p>
16:10 	<p>(A13) 竹見哲也・京都大学（創D） 【司会 森信人】 顕著台風による風水害ハザード評価のための領域気象シミュレーション</p> <p>(A14) 木村富士男・海洋研究開発機構（RECCA） ダウンスケール情報が地域における適応策検討に使われるために</p> <p>(A15) 花崎直太・高橋潔・脇岡靖明・国立環境研究所（S8） 温暖化研究におけるシナリオについて ～ 開発・利用・解釈・拡張 ～</p>	<p>RECCA 気候変動適応研究推進プログラム （文部科学省，PD：三村信男・茨城大学）</p> <p>S8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究 （環境省，研究代表者：三村信男・茨城大学）</p> <p>創D 気候変動リスク情報創生プログラム，領域テーマD，課題対応型の精密な影響評価 （文部科学省，課題代表者：中北英一・京都大学）</p>
	総合討論 + 懇親会	